

# ナミビア月報

(2019年1月)

在ナミビア日本国大使館

## 【内政】

- 大統領は年頭挨拶で、2019年は政治家にとって「説明責任の年」となる旨述べた。
- 本年予定されている国政選挙を控えて、選挙管理委員会は深刻な人手不足であると表明した。

## 【外交・対外関係】

- 大統領は SADC 議長としてマダガスカル大統領に選ばれたラジョリナ氏を祝福した。
- 大統領はアラブ首長国連邦を訪問し、相互に大使館を開設する意向である旨表明した。
- 大統領は SADC 議長として、コンゴ(民)国民が選挙後の事態を友好的に解決できるよう協力すべきである旨述べた。
- 中国が FOCAC のもと、本年 6 月に長沙市にて第 1 回アフリカ経済貿易博覧会を開催予定である旨発表。
- 副首相兼国際関係・協力大臣がベネズエラのマドゥーロ氏を正式な大統領として認定する旨発言。

## 【経済】

- ナミビア銀行は 2019 年の経済成長率が 1.5%に回復 (2018 年:0.2%) するとの見通しを発表。

## 【その他】

- ナミビアを含む南部アフリカ地域に干ばつの恐れ
- 教育機関で教室が不足

## 【内政】

- 大統領による年頭挨拶  
ハーゲ・ガインゴブ大統領は、年頭挨拶において 2019 年は「説明責任の年」として、政治家はこれまで開発目標達成のために実施してきた内容などについて有権者に説明することが求められると述べた。(7日ニューエラ紙3面)
- LPM(土地を持たぬ人々の運動)は与党 SWAPO(南西アフリカ人民機構)や UDP(統一民主勢力)が一部住民を脅迫していると主張  
LPM のリーダーであるバーナダス・スワルトボイ氏は SWAPO や UDF が LPM の支持者をク

ネネ州・エロンゴ州・コマス州・カラス州・オチョソンデュパ州において脅迫していると主張した。(9日ナミビアン紙3面、9日ニューエラ紙1面、9日ナミビアン3紙1面)

●選挙管理委員会は深刻な人手不足であると表明した

国政選挙まで10ヶ月を切っている一方で、選挙管理委員会の正規職員は54人しかおらず、深刻な人手不足であると表明している。(17日ニューエラ紙1面)

【外交・対外関係】

●大統領がマダガスカル大統領選の結果を祝福

ハーゲ・ガインゴブ大統領が、南部アフリカ開発共同体(SADC)議長としてマダガスカル大統領選により大統領に就任することとなったアンジ・ニリナ・ラジョリナ新大統領に対して祝福の言葉を述べた。(14日ニューエラ紙3面、14日ナミビアンサン紙3面)

●大統領がアラブ首長国連邦訪問

ハーゲ・ガインゴブ大統領がアラブ首長国連邦(UAE)を訪問した。ナミビアとUAEは相互に大使館の設置とUAEからナミビアへの石油の供給の可能性について関心を示した。(16日ナミビアン紙3面、16日ニューエラ紙1面)

●SADCがコンゴ(民)の大統領選挙について発言

南部アフリカ開発共同体(SADC)の議長を務めるハーゲ・ガインゴブ大統領は、コンゴ(民)で激しく競われた大統領選挙が紛争へとつながらないように、周辺地域諸国は手助けするよう呼びかけた。また、野党UDPS党首のフェリックス・チセケディ氏が最多の700万票を獲得し当選とされていたが、2位のマーティン・ファユル氏の不正があったとして再集計を要求したため、SADCも紛争回避のために再集計を一時求めるなどしていたが、翌週にはSADCとしてすべての利害関係者はコンゴ(民)の新大統領とその政府が統一性・平和・安定を守れるようサポートするようにと呼びかけた。(16日ナミビアンサン紙3面、21日ナミビアン紙17面、21日ニューエラ紙18面)

●中国—アフリカ経済貿易博覧会開催予定

ニューエラ紙は、中国がFOCACのもと、2019年6月18日から20日の期間で第一回中国—アフリカ経済貿易博覧会を湖南省の長沙市で開催するとの見込みを報道した。(18日ニューエラ紙7面)

●インドとの二国間関係と直接投資

チェケロ・トゥエヤ産業化・貿易・中小企業開発大臣は、ナミビア—インド間の戦略的産業化と二国間の繁栄のため、戦略的同盟関係の強化について呼びかけた。(21日ニューエラ紙12面)

●副首相兼国際関係・協力省大臣がベネズエラのニコラス・マドゥーロ氏を正式な大統領として認定

ネトゥンボ・ナンディ＝ンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣は、ベネズエラのニコラス・マドゥーロ氏を正式な大統領として認定し、ベネズエラにおける政治危機の国内解決を呼びかけた。(1月31日付ニューエラ紙4面)

#### 【経済】

●ナミビア銀行が2019年の経済成長率見通し発表

ナミビア銀行は、今後も経済的課題はあるものの、経済成長率について2018年の0.2%から、2019年には1.5%のプラス成長まで回復する見通しであると発表した。(7日ナミビアン紙11面)

●首都ウィントフックがアフリカ全土で6番目に物価が高い都市に

Numbeo社が発表する消費者物価指数ランキングにて、ナミビアの首都ウィントフックがアフリカで6番目に物価が高い都市であるという結果になった。(16日ナミビアンサン紙5面)

●中央調達委員会は16億ナミビアドルの入札を疑問視

中央調達委員会は、規則が特定の企業に有利であるとして総額16億ナミビアドルの3件の入札に対して疑問を呈した。(25日ナミビアン紙1面)

●漁業省は漁業権に関して南アフリカと覚書を締結

漁業省は漁業権を獲得した申請者について3月末までに公表するとした。また、漁業省は18日、南ア農業・林業・水産省との間で漁業及び養殖分野での協力に関する覚書を結んだ。バーナード・エサウ漁業・海洋資源大臣は、毎月50億ナミビアドル分の漁業資源が主にアンゴラの不法もしくは報告申請無しの業者によって奪われているとしている。(21日ナミビアンサン紙1面)

●2018年第3四半期の輸出品上位5位を発表

ナミビア統計局による2018年第3四半期の輸出品の上位5位の中で、魚が唯一の食品であったと報告された。その他の主要輸出品として、ダイヤモンドや貴金属などの鉱物、鉍石、精鉍などが報告された。(1月29日付ナミビアン紙10面)

●国営石油会社(NAMCOR)がガス発電計画の規模変更

国営石油会社(The Namibia Petroleum Corporation of Namibia: NAMCOR)は、昨年4月時点では南アフリカ及びザンビアの電力会社との間で買収合意が成立しなかったため、

クドゥガス開発計画の規模を縮小するとしていた。今般、現在特定の地域市場にのみ天然ガスを供給しているが当初の見積もりよりも必要経費が非常に安価で抑えられることを受け、今後は安くより手頃な価格になると確信しており発電計画の規模を変更するとの見方を示した。(1月31日ナミビアンサン紙4面)

【その他】

●ナミビアを含む南部アフリカ地域に干ばつの恐れ

複数のニュースメディアは、ナミビアを含む南部アフリカ地域が干ばつの大きな危機にさらされていると報道した。(7日ニューエラ紙1面、8日ナミビアンサン紙3面、10日ナミビアン紙1面)

●教育機関で教室が不足

地域外からの新たな生徒の流入や、進級試験が難しかったために例年より多く不合格となった生徒がでたことから、小学校における教室が不足しており、コマス州知事は余剰生徒についてはテントで授業を行うことで可能な限り手は尽くし、すべての生徒が勉強できるよう受け入れているとした。(16日ニューエラ紙4面)

(了)